

**YOSHIROTTEN にとって初の公立美術館での個展〈FUTURE NATURE II In Kagoshima〉が、
鹿児島県霧島アートの森でスタート。自身の故郷である鹿児島の自然、
そして長年に渡り探究する「光」をテーマに、美術館の展示室全体を用いた大型インスタレーション新作を
発表しています。記録写真・映像が公開になりました。**

本展では、それぞれの作品がお互いに影響を与えながら、展示風景が変化していきます。天候や時間帯によっても表情を変えていく、一度きりしか現れない光景が立ち現れます。会場では、YOSHIROTTEN 本人の作品解説を含むハンドアウトが配布されており、作品のアイデアや由来を知りながら鑑賞できます。また、YOSHIROTTEN の作品を題材にした塗り絵コーナーも設置され、美術館の野外彫刻展示などと合わせて家族づれや様々な年代の方々が楽しめます。貴メディアでの、記録写真・映像の公開や、取材など是非ご検討くださいませ。

〈展示概要〉

特別企画展 ヨシロットン展「FUTURE NATURE II In Kagoshima」

会 場：鹿児島県霧島アートの森 アートホール

住 所：〒899-6201 鹿児島県始良郡湧水町木場 6340 番地 220

ウェブ：www.open-air-museum.org

会 期：2024 年 10 月 8 日（火）- 11 月 24 日（日）月曜日休園（祝日の場合翌日休園）

開園時間：9:00 - 17:00（入園は 16:30 まで）

観覧料：一般 1,000(700) 円／高大生 700(500) 円／小中生 500(300) 円（ ）内は前売り又は 20 人以上の団体料金

主 催：鹿児島県文化振興財団／南日本新聞社／MBC 南日本放送

協 力：湧水町／霧島山麓湧水町観光協会／鹿児島第一交通株式会社／鹿児島県立鹿屋工業高等学校

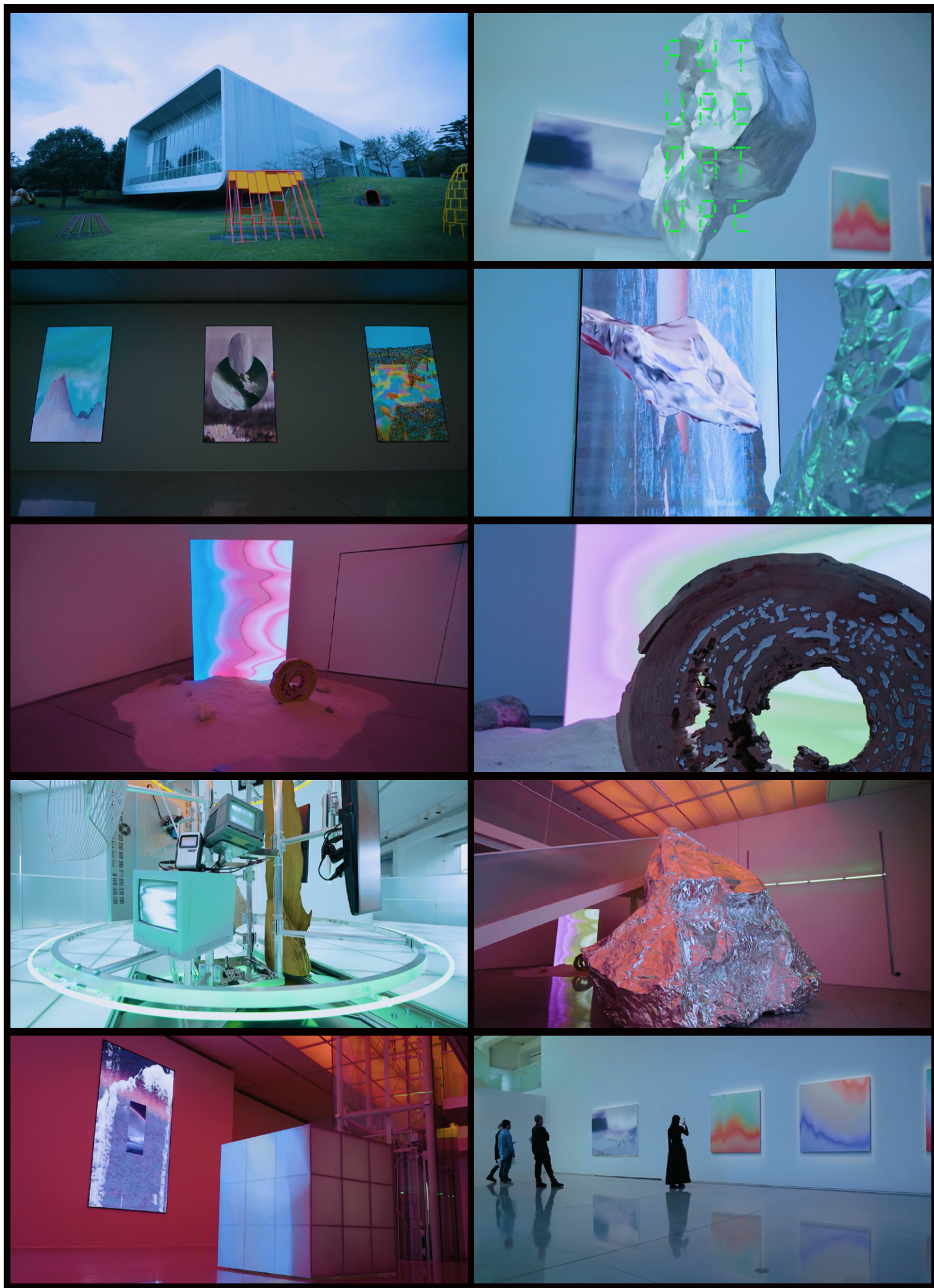
協 賛：ギャラリー月極／THE NORTH FACE／G-SHOCK／STONE ISLAND

特別制作協力：株式会社博展

制作協力：LED TOKYO 株式会社／株式会社サンエムカラー／株式会社 TASKO／株式会社 BAGN

企画制作：YAR／Y_D／Nozza Service

記録写真とテキスト類は、[こちら](#)のリンクより確認・ダウンロードをお願い致します。



展示の様子を収めた記録動画が、[こちら](#)のリンクで公開されています。

私たちが見ている自然風景は、未知なる光に照らされたとき どのように映るでしょうか。

ヨシロットンは、自然世界と都市文化、空想科学と精神世界、デジタル表現と物質的素材の探究など一見相反する領域を、平面から立体、映像といったさまざまなメディウムによる表現を通して横断的に模索しています。その作品は、キャリア初期の音楽や映画などサブカルチャーの肖像・記号を引用したコラージュ的な手法から、近年は色彩や地球、ニューエイジに関するリサーチや仮説を基にしたS.F.的な世界観のものまで、いくつかの関心をダイナミックに行き来しながら、ヨシロットン特有の視覚言語を通して独自の作品世界を作り上げます。

2018年以降、ヨシロットンは山々や河川などの自然を元にした造形とデジタルな質感を組み合わせた《FUTURE NATURE》シリーズを制作しています。地球・宇宙・神秘主義・シミュレーション・グラフィックといった幅広い彼の興味に基づくこのような作品群の裏には、「もし自然に全く違う見え方がありえたとすれば、そこからどのような世界像が立ち現れるのか」という視覚や認識に関する彼の純粋な好奇心と想像力が垣間見えます。そのような疑問は、「光」や「メディア」といった彼の作品の中心的なテーマへと繋がる一方、彼の出身地であるこの鹿児島県の雄大な自然環境や歴史からの大きな影響が見られます。

「メディア」とは、もともと何かと何かを仲介する存在を意味します。「光」が物体に反射して人の目に「色」として届くことで、私たちは周囲の世界を視覚的に認識することが可能になります。その意味で、「光」は私たちに物体の存在を知らしめる媒体＝「メディア」と言えます。《FUTURE NATURE》シリーズは、こうした「光」や「メディア」といった不可視の世界をめぐる長きにわたる人類のロマンを詩的に表現します。そのうちのひとつとしてとりわけ彼が関心を寄せるのが、本展の重要なモチーフである「石」です。原始信仰の対象であり、それ自体が自然界の記憶を内包する媒体でもある「石」を、悠久の時を超え周囲の環境に合わせて姿形を変えながら存在する「メディア」としてヨシロットンが捉えます。そこには、石を周辺環境のデータの蓄積として見る、彼独自のデジタルな感覚に基づいた眼差しが見られます。また彼は、太陽の「光」を独自開発した採光センサーを用いて可視化し、不可視の存在の中に人類が見出す美、そしてそこに潜む崇高さへと迫ります。

本展の制作にあたり、ヨシロットンは自身の故郷である鹿児島県を頻繁に訪れました。大浪池、丸尾自然探勝路、千里ヶ滝などで採取された「光」や、地面や岩肌などのスキャン画像など、データに姿を変えたもの以外にも、軽石や砂、屋久杉などの土地が作り出した自然素材も作品に取り込まれています。天孫降臨神話の舞台とも言われているこの土地は、宇宙にも強い繋がりを持っています。ヨシロットンが育った大隅半島には日本ではじめて人工衛星の打ち上げを行った内之浦宇宙空間観測所があり、手付かずの自然と宇宙への科学的探求が共存する場所でその感性は培われました。本展の世界観は、ヨシロットンが生まれた鹿児島県が育んだものでもあります。目に見えるものと見えないもの、神秘と科学の間で揺れる振り子のような時間・空間にヨシロットンの《FUTURE NATURE》はその両者を照らし繋ぎうる未知の光を描きます。彼の作品から立ち上がる景色や感覚に、ぜひゆっくりと身を任せてみてください。